太鼓手附諸流異同辨 全

特57
562

256
213

075017-000-3

特57-562

太鼓手附諸流異同辨

観世　元規／著

M43
CEL-0942

特5
562

明治
43. 8. 12
内交

虛心

賀
賀

明治四十二年
五月

正二位勲一等侯爵
蜂須賀茂韶書

緒言

太鼓手附本ハ從來完全ナル板本無ク適〻書肆ニ就キテ購フ所ノモノハ錯誤多クシテ其用ヲ為シ難キカ故各自謄寫シ以テ僅ニ其用ヲ辨スルニ止レリ予深ク之ヲ憂フルコト茲ニ年アリ因テ便利ナル手附本ヲ編シ汎ク之ヲ頒チ公衆ノ便宜ヲ圖ラント欲シ夙夜苦心スルモ如何セン勤務ニ忙殺セラレ空シク歳月ヲ経過セリ然レ

トモ年来ノ志望止ミ難ク些々タル餘暇ヲ以テ今ヤ漸ク一書ヲ編纂シ名テ太鼓手附諸流異同辨ト云フ亦是レ老婆ノ深切ト謂ッヘキ乎

明治四十二年五月

六十五翁 観世元規並書

凡例

一 本書ハ謡五流ヲ通シテ用ユルモノナレハ大異ハ別記スルモ小異ニシテ手配リニ差シタル影響ナキモノハ悉ク之ヲ別記セス

一 重キ習事ノ分ハ省キタルコト

一 謡ハ首座ヲ標準トス然レ共節附ハ必用ノ分ノミヲ参考迄ニ附シタルニ止マレリ

一 題目ノ下ニ観金宝剛喜ノ頭ヘ○小星ヲ附シタル舊幕府ヘ書上中ニ無之維新後編入シタルモノナレハ首末ニ抱ハラス標準トセス

一 本書ハ観世金春両流ノ太鼓稽古用ニ供スルカ為ノ

少シク蛇足ノ箇所ヲモ記入シアリ

索引目錄

高砂 一
白樂天 三
難波 四
玉井 八
養老 十一
吳服 十四
竹生島 十五
寢覺 十七
代主 廿
逆鉾 廿二
老松 一
加茂 三
白髭 六
氷室 九
右近 十二
志賀 十五
弓八幡 十七
江島 十九
九世戸 廿一
和布刈 廿四

嵐山 廿五
鶴亀 喜多六月宮殿 三十
西王母 三十二
道明寺 三十五
淡路 三十九
源大夫 四十
鵜祭 四十三
室君 四十七
繪馬 五十一
松尾 五十四
御裳濯 五十五
大社 廿八
東方朔 三十一
輪藏 三十三
放生川 三十七
佐保山 三十九
富士山 四十一
岩船 四十四
金札 四十九
伏見 五十三
浦島 五十四
碇潜 五十六
實盛 五十七
朝長 五十九
羽衣 六十
遊行柳 六十二
藤 六十四
善界 六十七
鞍馬天狗 六十九
紅葉狩 七十二
殺生石 七十五
錦木 七十六
船橋 七十八
通盛 五十八
杜若 五十九
誓願寺 六十一
六浦 六十三
陀羅尼落葉 六十六
船辯慶 六十八
安達原 七十一 觀世ノ外ハ黒塚
春日龍神 七十三
女郎花 七十五
葵上 七十七
小鍛冶 七十八

合浦 七十九
松山鏡 八十
羅生門 八十一
張良 八十二
鐵輪 八十四
咸陽宮 八十五
車僧 八十五
鷲 八十六
百萬 八十六
三輪 八十八
蟻通 八十九
小塩 八十九
龍田 九十
雲林院 九十一
卷絹 九十一
耶鄲 九十三
葛城 九十四
山姥 九十五
阿漕 九十六
唐船 九十七
鵜飼 九十八
鐘馗 九十八
西行櫻 九十九
正尊 百
項羽 百〇二
熊坂 百〇三
禪師曾我 百〇四
調伏曾我 百〇五
野守 百〇五
烏帽子折 百〇七
海人 百〇七
皇帝 百〇八
大會 百十
藤戸 百十一
龍虎 百十二
舍利 百十四
土蜘 百十五
第六天 百十六
融 百十七
大江山 百十八
藍染川 百廿
谷行 百廿一
國栖 百廿二
胡蝶 百廿三

藤榮 百廿三　雨月 百廿四
雷電 百廿五　来殿 百廿五
昭君 百廿六　常陸帶 百廿八
三笑 百廿九　千引 百三十一
蔓法 百三十一　草薙 百三十二
豐干 百三十三　枕慈童 百三十四 觀世方八菊慈童
枕慈童 觀世 百三十六　現在七面 百三十六
絃上 百三十七　一角仙人 百三十九
檀風 百三十九　大蛇 百四十
鵜龍田 百四十一　飛雲 百四十二
須磨源氏 百四十三　愛宕空也 百四十三
鱗形 百四十四　現在鵺 百四十五
葛城天狗 百四十六　天鼓 百四十八
關原與市 百四十八　當麻 百四十九
大瓶猩々 百五十　吉野天人 百五十一
猩々 百五十二

以上百三拾九番

高砂

観世 金春 宝生
金剛 喜多

ワキ 高砂や浦舟に帆をあげて月も諸
共に出塩の波の淀路の海路やまさしく船の
沖つ風帆に上ル 我も共に久しく成ぬ住吉の岸の姫松いく
世へぬらんむつまじと君も老をやしるらん
久しきよりの神ぞかし 地 ちぎりの松の根あらはれ
て 上 入 ツレ 住吉の浦の宮つこうち 上 北 西の海ぞ
ときこの 上 北 又 元 二 又 ツレ 東の浦曙より 地 あらはれ出し神松の
もとや陸の空の見かぎく たまもかれる岸陸の
シテ 松根こそ腰とまれば 北 千年の緑ぞ

（シテ）梅花と打ちつれまさるべきものを　二月の
雪庭に打つ

下掛り

（上ゲ）芙蓉やうの雪の色かな

老松　上掛り

（ワキ上ゲ）うれしきかなやいたはしや　世松に旅
寝をすれば嵐の音ばかりとて乃時沖の浦とも
（コキ）なん

（ほシテ上ゲ）如何よ紅梅殿今夜
のまれびとをば何とか魅め給ふべき　実ども
ふるまひたち　（シテ）梅の色香も　（地）松とても

（シテ）名社老木の若みどり　花も又
かづく　（シテ）奇瑞うたがひ　（地）なし　又
宮寺の声をもみちなる有かなや
（シテ）枝乃ぬ　（地）梢はわが本のもと乃神
（シテ）見ハ老木の神松も　見る老木の神松
はちよろや垂ぶを石のもとにまもりて若
のもとまで　（シテ）若の子をもまもり　（地）松竹づかえ
（地）よいとけづる　（地）この約束もまれと
我神慮の苦とも　（地）松風も梅もひとしき
にぎはひぞたまれ

下掛り

いとよき御殿を夜の梺人とハ何とう感ち
まよひつき　口上　実ろうくまもち樹も色ち
き　樹ても　名こそ老木の名みそう
神海ちう神ろ　分とうしい春とまい
神先と仰ろ高ちの声もうちろ力強や
さん枝の　口上　さん枝の樹ハ老木のもろ神
見ハ老木の神まつれ　こをハ老木の神松
君　手をやちちふぎれ石のいとをもて。
若のもとまて　松竹
鶴亀の　上　よりいとさんぜ石のぢ宋
ちもて我神流の若とぎ　松風も梅

えろうきまそ紀　月出ろ紀

白樂天

観世　金春　宝生
金剛　喜多

シテ　誰なりとても覚ぞよ我ぞよあらバ此舞
樂の　教を法の名笛ハ龍乃吟ぶる色舞
人ハ仕廚が老の初ぶ山ちたろうえん者海ぶうう
ひつて海青樂とまあべしや　シテ　芦原れ
北元又　國を動ぶ夢代ぞふ
ほレテ上　山陰のうつろの水のまき海の　間の敵
ウ　の海青樂　シテロカ　西乃海ぶとぎぶ君の。
波間より　上地　顕ぶ中一住吉の神ぞ。ぶと君

の如すすもの　あらそれ出し住吉の

加茂　観世　金春　宝生　金剛　喜多

吉

そもそもや我姿の。真とあらはさば浅猿あるべしや成おんぷ名神は考海ゆるのやうとおもき神をかくしてはまぎらはしてかりとよ海よきやうや神はかりしるべ

天安上

其有新の打つ物か。我迹をあらはす地と表して法界を垂の応生とだに子とかぞしえうかりけるおやの神徳あらでしかるくぬ時代とぞ成まれて

吉

ぞしかるべきのりてもいまも今此時　時はうるとときいたる　感應あるとば新向微妙の相好法爰まのあらはす。

加茂の山なるみどりの陰。うるはしきみどりの神成ぼとしてぞとこと

るぞ。爰をとうるに形かるよ。山河草木動揺してまのあらわるわをいづらの神殿

我ら皇王城を守る

考日の道別雷乃神なり　あらしの諸天善神しるべ。虚空よりの花形　又ら國土を

安泰の方便　和光同塵結縁の姿あり有

かゝれ。風雨隨所のうそぶき

雲井の　別雷の雲きりとうづら

ひゝり榊葉のいかるがの露もやどる

だまなるいづちれ雨をとゝ[illegible]

見者ハ　風ろ〳〵　やろ〳〵　とゞろ〳〵と

かゝるろ人塔の人の敬の神もうれハ五穀

如乾も國をと志ゆゝ[illegible]ハ北邦德

威光紙程に[illegible]の神紙の

森の花去〳〵　いまたハ[illegible]

きりと。ろいづちれ神もあはちまち上

[illegible]邦も天路よりのぼつ〳〵虛空あゞ

ゝをたまひきりて

羅波觀世

見〳〵義氏をの考ふ更る家の〳〵。

月影もに閑なる家毫よりゝ音樂を。

ひよ[illegible]ゆる[illegible]

[illegible]の色ハ東より来しゝ[illegible]初

て家〳〵家ハ所も西の海ゝ命ゝ羅波乃その

最考。月雪もも浦乃濱ゝ[illegible]ハ西

幻や。菱〳〵[illegible]ハ羅波の

浦ゝ年とゝ[illegible]代乃惠と安ゝ

花咲や姫の神楽の初春の　我ハ赤面深雪

[illegible]国を渡り来る[illegible]を守る王仁や

[illegible]相人の[illegible]　[illegible]徳の御守ふか

[illegible]代の鏡の新[illegible]を写し　[illegible]の[illegible]

[illegible]　[illegible]の白い[illegible]

[illegible]のもろみ[illegible]　難波の事の法

[illegible]遊び戯[illegible]　[illegible]

上天保

梅の枝[illegible]　[illegible]

[illegible]雷[illegible]　[illegible]敬の[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]敬

[illegible]　[illegible]ハ難波[illegible]

[illegible]　[illegible]　浦[illegible]　[illegible]の色

入江の[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　難波の[illegible]

[illegible]

全春　宝生
金剛　喜多

同

七上

今ぞ[illegible]　難波[illegible]

信を[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]

村人の答 何をとぶらも昔しのかん
こ若しの雅波の名もかぐろうぬ代なり
かうしや

白髭 観世 金春 宝生 金剛 喜多

上ノ句 ゆかしの雲も立さらぬ
風の名老の浪も名ふる鈴の箱やみ
つぐ我白髭の神ぞ玉ぼこ押
ひらき社壇よ入給ひ給へ

上花 八乙女乃進代花もよぎねの敷
も舞もみ神はびわこまて打つかる

上ノ句 神さ人のうやまうる盛をん波
しやは色八和の侵ぬ山ぎも牧ぬ
上ノ句 ぬぎや社壇のうちうつ
妙象は色と中厳ものづ
玉ぼこうやま波乃神のこ
張りれうう

上ノ句 神楽よいなうどうぞ行の
やうう松曲をつ和をろくて
数拍乃舞ハ有難や 面や
沈舞楽の数ハものづうつ
浪の拍松風ハ琴を考へ舞をま

[illegible]

わらびをいの面鳴動すハ天地龍神の

来現のや

天地の為龍あられ

てゝ[illegible]あるよりあるひの山

河を未かやきわり日夜のきり[illegible]

かゝて[illegible]や明方

[illegible]

のゝ[illegible]て[illegible]やゝ[illegible]にあれ[illegible]

明神より[illegible]ハ明神も[illegible]と

あ[illegible]ぜんざい[illegible]歳[illegible]ハ天女を

あ[illegible]ま[illegible]ハ龍神ハ[illegible]

上[illegible]

天地よりあれて[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉井　観世宝生　金剛　喜多

かゝて三年ゝ成ぬ[illegible]ハ我[illegible]

で海[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

猶うつされしその内より曇らぬは我おもて
なり　我身に玉を捧げつゝ。豊玉姫
玉依姫二人の姫宮。金銀まんてう玉捧げ。
尊は御ぞなかり彼鉤を釣のかなつれ
玉を輝きよ　まうとの君乃
めでた思ひわたつみの宮を出てなんとある。
天孫のみまへにたてまつる　塩満志不
ひかりかゝやき玉をとりすでに志んに氵
まへけらきなり舞楽を奏し尊を祝すなり。
神を迎へて舞楽よ　何とも妙なる
舞の袖　玉のかんばかつるのま

ゆふべの月を照しそふその姿をとらへくれ
なるらんか　わだつみのこゑやかし
わだつみの宮主。姿を顕しましの玉を捧
こかね抜けずして若者よりへ尊も御身中の
まわりてハしらくし舞の袖とかへす時
うつせバ潮ハ陸を潮満の玉へかへバ波
ふきかへしてその宮の玉をとりて五丈の
わたの尊二人の姫宮玉をとり龍
玉なる潮をそしひかへとをそふ
かくて送りつきぬ送りは送つてつきあらまして。
又龍宮にぞ帰りける

氷室 観世

いかにもあへねて山人は風松声にまがへたる樹
おもね重ハおりかちな山河草木をして涼しく氷
を志きて夏もしんしん都と思へバ氷室守
氷をとる朝をみくもろ乃うちに入ましき氷室
のうちに入よきるも　楽
ひかれてこそりつの舞の神社ゆきしなしと
かまへみや氷室の山氷やどり　雪をめく
られ若の袖うか　雲ゆきかきバ代の春
もわ夜照てひもろの日備あるなり

おろかへよや　げにもいつくしき姿かな
の砂　長じては又いはほとなるまで　山河も
震動し大地も動きて寒風しきりに解とつ
めて紅蓮大紅蓮の氷を戴き氷室の神前
にさえかやきそぞ舞ふたる　谷風はれも
けえ残りて　月もかゝやく氷岩
おりて　鏡とうつる鏡のごとく　清風
そまろを吹きかへ　陰もこぼり谷れ
戸ぶき　雪ハしらきあふれハおこまりて岩
まれあらしまじ石乃あお井の氷とどちつつ
らゆきとぞりなし　ひ出る氷室の

かこき

神風やよゝやひやこう金

君の恵みぞありがたや、波ぞおさまる

氷室をまもるも氷乃日まで月よゆきやらし

と待つる氷の御調へ運ぶなるや夕へ〳〵と

采女乃舞の雪袖をかへしゆふ衣の袂は涼て

薦氷を守たるか〳〵と氷

室の神は氷を志ゆごし日影をへだてゝ雪氷

とゞまる涼風吹いてその都へゆきことわる

雪を志のぎて北山おろしや都も見へ有り

しいそぎやいそげ氷の調を守る砺

も愛宕の郡捧ぐる供御も日の本の君は

禎ぎのことそめでたまれ

同　室生　喜多　金春

楽しみあれて古る橘の、葉は種こそゆくなれ
曇るなき御代の光。
かすてらん氷室の清御調をおさめつ

同　金剛

楽しみあれて小る橘の露は袖にぞゆるなれ
曇るなき君が代は天
照れ氷室乃御調御なり

養老

観世　金春　宝生
金剛　喜多

いひもあへねばふしぎやな　天より光
かゞやきて瀧の響きも声すみて音楽聞え
花ふりぬ是たゞ事と思はれず
有難や治まる御代の習ひとて山河草木
おだやかに五日の風や十日のあめの音しづかなれ
日の光り曇らぬ玉水の薬の泉はよも
尽きじ老いぬ齢のきはもなし　是とても誓
ひは同じ法の水尽きせぬ御代を守るなる
我は此山山神の宮居　又は楊柳観音
菩薩　神といひ　仏といひ　唯是水
波の隔て　衆生済度の方便の声
峯の嵐や谷の水音ずれも　拍子
を揃へて音楽の響き瀧津心を澄ましつゝ
諸天随喜の舞の袂　松陰に
舞とかやそれみやうかな　げにも妙なる
山の井の水。山の井の水汲める山井の　水
滔々として浪悠々とかりうちある御代乃君は
船臣は水よく舟を浮めて
臣よく君を仰ぐ御代とて国も豊かせ
じやうつきせじや君が代の光も母
八千代を濁さぬ瀧津の水の汲めども尽きぬ何ならの。
遊びもよしや千代の御代こそ戯君

みちよく久しき御栄へ

右近　観世

ワキ上ゲ哥 実に今とても神の代の　ちかひ絶えせぬ
末すぐなる君と臣との恵みを守り給ふ治まる御代や
しき
上 まつりごと正しき御代とかや
なる右近の馬場乃をちこちを見て花も花よ打
みて煙霞九陌の塵にまじり神は和光の法
も守りあまき君の威光も新たなるしるしも豊かなる代
治る風ものどかなる代ぞめでたき　異なる哉
天照神の恵みかさねて八幡乃宮居と見えしも

シテ上 実に北野の神の御居小　桜葉の神
とあらはれ給ふ威光残りぎぬの袂も花の
の花ざかり　　上 月も照るなり花の色
く雪を見るは神のめぐみの葉乃影足引の拍
子の拍子声すめる雲の色八重たつ花の
にむすぼれ行く心の糸かな
シテ下 治まる都の花盛り　東南西北も音せぬ浪
のしられも色ある小野の若竹の松の葉かげを
とうつしまるはなれ桜花の匂ひぞ西
に桜の名におひし花の袖のしるしの如くを
ちかづくも木の下かげのやまれはそぞろに

あがむるやくもの出雲神ハあらがね世治まる八重垣

同　宝生

舞ハ雲鄙れさく紫乃袖を夕ハ明く
月の夜神楽を奏する人をもまたかくれ無かりけり
やがて遊楽も無かりけり

実今とても神の代のためし　誓ハひさしき
志きしまて神も君をの恵みて護りまもる有
難や／＼　　まつりごとの道も直き代
とさかなる君をの橋乃花をそへて花上苑
ふあまりかゝりて陌軒九陌の塵も清し
神は和光の陰もあかるき君の盛えも新
たゞ花もゆるぎ治る風ものどかの折よれ
めぐらすよ　見るも天照神の恵ぞ深く
うけてハ桜の主井とあがむる勝ひとき神王
小野の神とお御神まもる葉の神と齢も

呉服

観世　金春　宝生
金剛　喜多

うれしきかなやいざさらば此松陰に旅
居して風も嘯く寅乃時神の告をも待て
見ん／＼　　君が代を天の羽衣まれに来て
なでゝもつきぬ巌ほならなん舞やちとせを
松の葉乃散りうせずして色ハ猶まさきのかづら

おりきよのたなはたにひかるや綾の紋をもけりをる。時とかや　洞天のかしこき安ずし夕浪に声なく
そよぐそよさの音　錦を織なる機むらちに。
けらしの宮とおもしし。夜ろつ旅のうへに
悪魔の舞衣の風。又もいすらつ浪の音
老きうかいきおきぶるの　とるや呉服の
手ずさ乃いと　我とるハあやを　やて木ぬあ
しひとく　まりをまうてちゆり　えきりまた
むちゆりしと　悪魔もおそれお
もろやぎまをりいお乃かげしのうて
君ひ出よう織女乃。しなましあへる。

旅人の、夢乃精霊妙なる菩薩も我向か
うまるる御すがたまでもだらのあやを
織なしし　我君よ仕へぞその御代乃まゐら
しれ二人の織姫呉服漢服のとりしまれ
とあやおのやうしのうゑもおすを
代こそめでたきれ

志賀　観世　宝生　金剛　喜多

いにしへを思へハ大宮の山風もすゞしきおさんぐし君る
はるかの花の陰月に御してお波の景時の側
年まうつりかはれ。遊楽の舞曲おもしたれ

しく
雪ならバいくたび袖をはらハまし
花の吹雪とよみけんも志賀の山越えも同じ花
その里も春めくや江乃浦の志賀辛崎の
松風迄も千声の春のどけき海ぢかし。
さゞなみや志賀の都 年経ぬる身ハ老が身も
の それハ老が身も志賀の 神声々
ゆふ(?)まくらして神楽しや。神楽の声

竹生島
観世 金春 宝生 金剛 喜多

翁ハ水中に入りとみえしが波風立ち我ハ
此海のあるじぞといひ捨てゝ波に入らせ給ひ

御殿しきりに
鳴動して。日月光り輝きて山の端出づる
ごとくにてあらはれ給ふぞかたじけなき
其時虚空に音楽聞え。花降り下る春の夜の。月に輝く乙女の袂。かへす
がへすも面白や 夜遊の舞楽も
時過ぎて。月澄み渡る海づら。波風志
きりに鳴動して。下界の竜神現れたり
竜神湖上に出現して。光もかゞやく
金銀珠玉をかの客人に捧ぐる気色

さゝぐるなる　もとより衆生済度の誓ひ
さまざまなれバ或ハ天女のかたちを現じ
有縁の衆生の諸願をかなへ又ハ下界の龍
神となつて國土を鎮め誓ひをあらはし天女ハ
宮中に入らせ給へバ龍神ハ則ち湖水に飛行し
て波を蹴立て水を返して天地にむらがる大蛇
のかたち天地にむらがる大蛇のかたちハ龍宮に
飛んでぞ入りにける

同　宝生　金剛　喜多

天女　抑もハ此洲にすんで神を敬ひ國を守る名花
界の衆生天とハ我事なり

弓八幡　観世　金春　宝生　金剛　喜多

都よりて神勅をうけ　恐れ参り上りて
やがて御山も末の世の　天長地久の御代
實に行く末も頼もしけれ
シテ上　そもそも人の心我國化の人よりえ
我人と誓ひの末も晴れきぬ實相の月
それ八百萬代までも絶えせぬ君が
代の神とハ我事也　弓矢の神の名
神楽なりけりや　うれしき日影
まで　神の心を仰ぐ代の御代の恵み

うたふとかや

同 観世ノ外ハ

ありがたや、かゝるためしも人の世より我国他の人

よりハまさるをと

寝覚

観世
宝生

口 勅使志ばらく待給へ、夕月の影もろともに舞楽を奏し又は薬を与へんとて、かの老翁も岩陰に

見れバ老翁ハ岩陰に立ちよると見えしが、行末志らぬ

ら衣影よりて行清も志ら浪失るを

天津風しばし雲のかよひぢ吹きとぢよ

乙女乃衣あやしく紫雲行もまとをかへして波來

鼓声をもよほしていぜん楽しを奏しけり

柳花ハいわう仏の化現。薬師の方便の

めぐみの翁仮にあらはれ出にけり

その時老翁とびをとびさし、さしいさん

遠くに見えしかれバ東南よりきまれ西北乃

風も吹きたさまにかぜ隣男女音楽の天

き舞楽の数々乙女のたちまち遊びしも都

しろや

夜もすがらの舞楽も時すぎて

しく有明の月も落くる朽ちふるぎ

や河波をさしく浮まして二花の袂ハあらはれ

両竜王を河渡さうい

[illegible]

老翁怪しれ男をあること

[illegible]

神通自在の極樂を引ハ

[illegible]

波の法華

[illegible]

動使はして是迄ありし米ゟ

[illegible]

海ゟ船ゟ

[illegible]

沖へ出ゟ

[illegible]

夜も寒くと

[illegible]

愛の寂光

[illegible]

江野島　觀世

[illegible]

今宵の月よ天影の

[illegible]

姿わるなとも頭を

[illegible]

社わた

[illegible]

波布ゲ繩軌をさきた

[illegible]

張儀が英聲と

[illegible]

是聰明雪進

[illegible]

英女天の　音量安遠五戸思議の功德を

[illegible]

月も照

[illegible]

如意の宝珠の光りを誰ゟ

[illegible]

心の光りやせ時ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なげかるゝ月日は[illegible]きたる花盛と振い雲を
[illegible]やゝ[illegible]眼の先ハ天地の間そ
[illegible]舟大部八重[illegible]成体八[illegible]の上[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ明神[illegible]
[illegible]と廻り[illegible]
[illegible]雪[illegible]
向ふ郷

代主 観世

ワキ上ヲ
心[illegible]月の[illegible]
[illegible]

弥生の[illegible]同じ[illegible]の風[illegible]
静[illegible]
[illegible]有[illegible]
[illegible]初[illegible]
[illegible]代[illegible]
[illegible]天下泰平の[illegible]の山[illegible]
[illegible]れて[illegible]
[illegible]
山[illegible]雪ハ[illegible]
れ[illegible]
[illegible]
[illegible]

九世戸　観世宝生

今ハ何とうけたまはるべき。我ハまことばや深草の
大臣文隆の御子。小野の小町と申す人の我。
世を信心清浄の心とかんじ参らせ給へ
とて姿ハ深草の少将
天女上　夕陽の雲舞よ薄く棚引ハ天津
月も更行あまの原
我　月も更行あまの原
[illegible]
乙女の舞袖光も妙なる出雲と拝ハの
稍小天降り給ふ。ハ竜宮
より接る出雲の光海とうらんでうつくしう

ようそほひ。[illegible]
本光あるまさ雲乃竜宮乃大王と聖王
[illegible]八日月[illegible]
又ハ
界ハ竜宮の[illegible]
[illegible]
天地の五輪ハ[illegible]九世戸ハ明方
[illegible]
自在[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

乃ちうはあきうふのたまのやう
て海乙女の姿も雲井よりそなたは又竜
神八波をたてて[illegible]
とぞ[illegible]

逆鉾　観世

[illegible]山の桜もみちかしきそのこ
にう孫の花もさかりの樂ぞえもゆりて矣者
さんぜんぜんぜ

それハ波濤乃底より出る竜宮の接待あめ
ばちゃもに乗りの浦の漁乙女と雲のと
バ絹は老の浦かぐれ入ぶしきりやかなる
ちをうしろ

上句
みぎくれ小

神幸なる絵へバ　虎ヶ小音楽。
相風和して芳しく善香薫る春
龍女ハ波をもかぎし入ぬ水をもとめ殺
ク形

上表
去程に　知ら月に
ひらひら晴やかなる春の竜吟れ
ハ雲起り雨と知り潮も老ぬ和して沖
より詩歌ぬ

上花
書歌れ

りぬ形をく

上句
和布刈の所
花
ぬ形をとうぐ
ぎの破ものむ
を宴　上句　沖ふを
け屋風をたく
底の河ぬ
振たく

上ワキ
神主をい月。
とつ
和布をとる
みなぬ

上花
岸の
の河原の
姫ぬ
乃ぬ和田の

雲の浪煙

[illegible]

同　宝生

竜神はれもち弦をうつ　加市外の水

[illegible]　そらみや潮漲よゆるぎ

のいそ菜つむ[illegible]ゆきれ沖よ[illegible]沖[illegible]

[illegible]

わかさて海底のいそごハ半しなる

嵐山　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]

夕陽残る西山や前のかくよゆきふけ

芳野乃

ちりの花の枝

うつ[illegible]嵐山あるたあ神あそびぞ見出だ此

神遊びそなたなる　上三人　[illegible]月[illegible]

[illegible]　花

[illegible]

[illegible]　青柳の峯寒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

川の岸根に波うち[illegible]

[illegible]

神楽乃敷色津

[illegible]

枝をひろげて一輪をあらはす。樂天の松樹を愛
する感應肝に銘じ、不思議や南の
かぜ吹て風の美香薫じて強弓をふくがごとく、金
色光をはなつこと、ハ藏王權現の來ぎん
や　北　和光利物の誓願なり

我市先乃都を出ぬ。仮同伴の者よ
北　金脇両親の一生涯ひつ元をば　悪業去
庵に苦患となるを　北　又虚空をはなれ
あるべハ　怨霊河の煩悩をとゝむ　悪魔降
伏の西蓮のまゝ。また敵つ元國を成
て庵をとゝまれ。ひとあつ。ハ。ゆるか

ゆ。龍王種沢同辨天名のまがくとゝを
てゝ。ゆ。ゆ。乃山まちの行ゆ。れた
りを指ようを行ゆ。行ゆ。宝元金の家。
光を輝く東の海の接。ゆ。ゆ。
ゆゝそ。ゆ。ゆ。

同

金春方

同上　和光利物の誓願。　我や先の形を
出ぬ。ぬ。ぬ。

のまゝ[illegible]を[illegible]つく[illegible]をてし[illegible]
とゝ[illegible]ぢを[illegible]木[illegible]ぬ[illegible]を[illegible]一
[illegible]月同[illegible]ゆ[illegible]ぬ[illegible]せ[illegible]。

同　宝生方

上歌　和光利物の[illegible]。

我[illegible]光の[illegible]を

出[illegible]　口上　分段同居の[illegible]屋[illegible]交り[illegible]両[illegible]の

一[illegible]を[illegible]を悪業の[illegible]の苦患とす[illegible]。

[illegible]虚[illegible]とあ[illegible]ハ悪苦界の煩[illegible]

を[illegible]。悪魔降伏の正達[illegible]。

を[illegible]ぬ[illegible]屋[illegible]ぬ[illegible]ひと

[illegible]。花[illegible]択一[illegible]分月同[illegible]

夫名の姿をみをて

同　金剛喜多方

上歌　和光利物の[illegible]。

我[illegible]光の[illegible]を

出[illegible]　口上　分段同居の屋[illegible]金剛喜多

乃一[illegible]を[illegible]　悪業の屋[illegible]の[illegible]

[illegible]　口上　[illegible]虚[illegible]を揚ては　怒ち苦

界の[illegible]を[illegible]　口上　悪[illegible]の[illegible]

[illegible]に[illegible]を[illegible]つく[illegible]屋[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]を[illegible]。[illegible]花[illegible]択一[illegible]

分月同[illegible]夫名の[illegible]。

大社

観世 宝生
金剛 喜多

[illegible]

時雨[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]潮を迎を行ふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上北と又[illegible]
亀八千年は[illegible]
下に又[illegible]
やまもろこん　上に　千代の様の数ふ[illegible]

何とゆ[illegible]姫少紅の[illegible]の緑の亀も森に[illegible]
ちゆれ移ひ千年[illegible]齢を[illegible]獲[illegible]庭
上に寿向ひ[illegible]ば[illegible]と[illegible]威の[illegible]や[illegible]
と奏して舞給へ

上に　月宮殿の御衣の袖。

[illegible]の色[illegible]の[illegible]もの[illegible]秋八月の[illegible]の[illegible]
神[illegible]ぬ[illegible]雲れ[illegible]雲れ[illegible]を[illegible]
乃雲れ上人の[illegible]楽乃[illegible]色[illegible]小[illegible]雲霞衣の[illegible]
[illegible]山河[illegible]木園[illegible]ゆ[illegible]千代[illegible]万代[illegible]

[illegible]宮人加[illegible]御[illegible]殿[illegible]
[illegible]の[illegible]長[illegible]殿[illegible]遥御[illegible]て[illegible]出[illegible]れ

東方朔　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]桃[illegible]寿命長遠[illegible]
[illegible]主母と[illegible]併ひ[illegible]茶[illegible]中[illegible]
[illegible]庭[illegible]中[illegible]舞[illegible]
[illegible]
[illegible]
仙郷より[illegible]年々[illegible]
[illegible]西王母が桃[illegible]張[illegible]寿命

既に九千歳に及びて彼桃実を考へ得げもん
とのちひあり。いとやうの西王母やうの未
内申べ　上元　石男多や西の方にもあり。
白き一切降りて一が三里の青島麹成
ありて花廻りなるも妙なる王母の出立考へも
うやく衣冠と考へ得ん。上元の青島麹成
まろあるなり。等閑れ　王母は庭上に歩
いて彼桃実を捧げて上元の宴
れば帝王所蔵の仙人やうの考へ数を
年みな一周なれば彼の秘曲は打もし
ろや　上元　舞楽を潮ぶ。

夕平に西の方より来たるとの一説。後中。
時に帝王名残として絵はせて糸
内申に王母と夢の二人は侍はせるが。
王母は人間にふゆるとうち宝庭の雪路。
よりて彼の中に花の咲つて天上
ものもきれ

同　宝生

桃花は仙人のいとやうの方郡とは我
年なれば桃も我九千歳の齢をやうの。王母が
桃実を三度迄振り放也。今又目出度仙代
ありとは急いで考へ得ん。いとやうの

西王母とゝ[illegible]

同　　下掛り

[illegible]年とゝ[illegible]年方彩とハ我事

こゝ[illegible]ゝ[illegible]ろんゝの仙人西王母といふ者。

三千年に一度ゝ[illegible]実なる桃とゝ[illegible]彼桃実を

食ゝ[illegible]ゆゝに[illegible]九年歳を経

[illegible]の桃実を[illegible]けゝ[illegible]

いゝ[illegible]やゝに西王母とゝ[illegible]

西王母　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]糸竹呂律乃拍子ふ[illegible]おゝとゝ[illegible]て音

楽[illegible]天津風雲乃通路[illegible]

[illegible]西王母[illegible]かゝ[illegible]

[illegible]未詳[illegible]バ[illegible]乃[illegible]霍風風迦陵頻伽[illegible]

廻り聲[illegible]や神の羽風天津乙女の衣乃

[illegible]

[illegible]

の中[illegible]ハ西王母乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又こゝ川の
ゆつぎも　　上ニ　ゴ　ア　ラ　ー　ー　二　二三ニ　ニ
ミヤ　花をたづねや空の
ゆきもまえぎる谷曲ゆけばえんやさかのゆふだり
ヤマ　ヤマ
をそりやすたちやめれば神もうんをもなるびき
きれば　ぞの花ちまに風と和して雲路
ヤマ　ヤマ
うちもぞまゝと伴ひたちよれば王母も伴ひ
ヤマ
如天蓋乃ゆ　ゝ考ん考ん
ヤマ

輪藏　觀世　宝生　喜多

上ニ　ホ　ア　ヤマ
ホとあ給ひ　昔より今来の事云ふ類
ヤマ
柿ぶ上人の結縁の利益ばかりを海
夜一段我も此ぞくとあるべかりべ

家よりつて行道乃利益なるもと云ふ
ヤマ
て洗よきもの
月ハ　ヤ　ヤ　ヤ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

むかしの刹那の縁の遠き世の利益を廻らしすべて
各主の上人とぞ仰ぎ給ひ輪廻をはなれ給ひけ
ん花奉しとたぐひなかりしかば世をもてやや
月日の光り暗しぬ法の師たるよ
我が見め給の主様弟子共
男子勢経の親式と云ふ上人参り様九の
主の方へ参る箱とりて〳〵遣の神奉遣
張ひぬ〳〵仏法繁昌の方便とぞ
上人〳〵天狗にこそあり也張へば

道明寺

観世宝生 金剛 喜多

観世宝生 方

あの梢の菓子ぞ珠数の法師を忍ぶ多
申ばかりとて〳〵我と天神
の法名とバ推とり志と文の神と申箱
書を取て書りや霜行りに先〳〵
久更れぬ〳〵の〳〵の神遊び今思ひ
出もおぼろ〳〵や
〳〵琵琶琴和琴笛竹の筋ハ
変りとも深きぬ後世や迷ふ白太夫
いとひて出ぬ〳〵紅梅
〳〵宮寺は常のとり大切〳〵

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白玉の小忌の袖ふりかへて
うつも寄も老の波の寄せかへる
柳ふかしとすりかや

放生川

観世 金春 宝生 金剛 喜多

上掛り

ワキ上ゲ
都ふ帰り作動をぞ
あぐ屋しぶ(ば)ば山も寄れぜ夫春
ぶ舞ぶれて幸と思れも
ツレ上ゲ
方舞や百生年優の日光ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)
ぶ(ば)ぶ(ば)百代の松ぶ(ば)ん和光舞。ぶ(ば)ぶ(ば)

と寄ぶ仕人の作。武内ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)
ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)ぶ(ば)

実今をそもそも神の世の代代ぞ　ぞ来ハ行くたなり
なりしぞ（ばそもそもに多神品のぞ〳〵矣香美
どもの実ありなるあるれ）
あるを新四百年を慶の日はそもそも異代天下
歳万代の秋の人ぞ光乃新をもりあぞ郡元
とて〳〵の長武甫中光人より　事社香宝
邪て今る待天る数の神の年年を愛也
みさき新ちる地のよ　山中にはる
神社の社人　少志の衣代神をうて　千年
振り天乙女　久屋の月はて〳〵の男山　あ
ゆき新ハあり

法華経　観世　全春
全剛

実今をそもそも神の代代ぞ　ぞ来ハ行く
たなりとぞ　ぞもそもに多神品の月まで〳〵
ひとり代年色ぞ　ありけるやりも能
行たなり　しそ
ぞ来ハ波ぞ行ぞ月矣の郡も長京
なりみとり代ぞ　大のもきそ代ま
しそハ海の中とも元ぞ　ぞかき代神と八我
年のり行ぞ国常立乃そもあり　青
あつの神乃代の歌来八今に若の代より　和光

[illegible]

佐保山　金春

[illegible]

春日野

[illegible]

源氏　金春　宝生　喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（不老不死の仙薬と求むれども得きゆ

[illegible]

仙境ならなくまし（しうぶ）ぞくに者

[illegible]

[illegible]

上　笠間

[illegible]

[illegible]

[illegible]

上　かくもきもハ

富士の山嶽の雲時〳〵ずのけうをなりかくやゝ
姫ぎ沖縄事記考侯へり　上　実方経や非
の代々〳〵ぞ　ぬる新と紙りしゝ　ぞ不
死の仙薬を漢籍の勅使よりうへ実方た
ゐ秀歌なり

上　春〳〵ちゆきん

くこ孤雲の歌〳〵　雲ゆくしや〳〵
富士なる富士沙間の嶺今の新面実も沙
方秋なり　上　桂花ハ富士山に住て代を
ちる日の所ゝとハ我事なり　日上　和光同塵
秋りまて〳〵

弥陀の底をかりごの

上　栗数変

地の小国あれ〳〵　夫沖蔵を紙〳〵
孤ハ悪を考る者を庶生と書も弗も英
る富士の岳ハ金脇毋紙のゝちと紙〳〵の
所ゝ多る仙境なるハ不老之死の美風出ち。
勅使ハ二神を使ハ漢紙〳〵て帰ゝられで。
かくや姫ハ竹ゝ中の子花上ゝ
ゝを法ハ南院ゝ入ゝ　ゝ悪ゝ
や日本所ゝの海ハ弁ゝ弁ゝのゝ。日ぬ
ゝの海ゝ弁小ゝ　ゝ虚ゝ
ひゝ

稿

祭　金春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

岩船

観世　金春　宝生
金剛　喜多

観世方　但謡書計り

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

波のうち敷

同　室生方

住吉の松のうちの[illegible]

久しき代天の御安

[illegible]の岩屋戸を[illegible]神代の歳久

我ハ又世界をまんで神と敬ひそとうの枝は

海根の竜神なり　上北　我も神代のうまれ

又ハ海[illegible]代より出[illegible]　北　嶽の[illegible]毎を

[illegible]も[illegible]　北岩舟

上北　[illegible]波の敷物を[illegible]ちいやえいや

[illegible]　北　天のさくめら

波のうち敷

同　金剛方　脇能ノ節ハ常ニ白頭翁

住吉の[illegible]乃花を[illegible]

上　[illegible]

天のさくめら岩舟とどめし神代の歳久

我も赤世界を住て[illegible]と敬ひそとうの枝は

海根の龍神なり　口上　[illegible]ハ神代の住例と

[illegible]　北　嶽の[illegible]

[illegible]や動もなりや北岩舟

上　[illegible]

[illegible]ちいやえいや

[illegible]　北　天の

波のうしほ

同　　喜多方
　　室生ト同レ

室君。　観世　金春

金春方

是ハ播磨室の明神の社人にて候。嶽に天下春
平安安全にて候。併事も思召の通にて候。
うら目出き物にて候。室の名所の名所にて候。
名所にて候。室の名所の名所にて候。

女上　室のうみ　波も室のうみ

梅の香の　磯山をく

白雲ハ出無くして　ひとつ

梅のうきはうむ一段にて候。

月の光の　月の光の

水も室ハ有ても　月の光の

光のまい　玉のかんざし　陸奥の紋。

玉ぢんう殿後の殿風よなかひき揺やま
ゆ一面を宝のうみ霞やゆ山ハのやりて上来
ほくいのぎ紙をもち海ハてりて花花生来
きうと歌一面潤のうち。実相室の大海と
ろうどり失者ひつおり絵きも
ふめいがん風神をうはをハよりや春
のよ。やはこの春のそこにあり
ら物語ひり

同　観世方

上ゲレ　二二二　月日二

月ゲ乃ゲ　実行まに風治をバ。

金札　観世　金春　宝生　金剛　喜多

観世方　但祝言計り

上ゲ

嬉しきうゆいたけ一バ　波まり張上

振振て風を青くとうの好神の若をも清

上ゲ　上ゲ

守べ一わ乃宝れバ

上ゲ　上ゲ

まうもれ乃代いうと張きも　張よ乃。

上ゲ

ほ命ゆ度をぱうり者一　風ど音く世

上ゲ　上ゲ　上ゲ

よ神ら実　かり　ゆ　廉も金

上ゲ

の乱乃神森。者ゆ見河をふ。張

上ゲ

四海と治り一安。

上ゲ

や者ま代　八百万代の者一ま一れや　悪戸

陳伏の古墳の形式

初文はぎまハけど

わ〳〵ふ神もそ〳〵へのひもろぎ

祝ハ歎〳〵ふ左も右も神力を悪魔を祈〳〵

い法りとあ〳〵を金箱の郷ちり

連も法れ国うれハ〳〵ぬ〳〵おもや。

ゑ船ハ水ほのゆも考ふ神代なれハ。

東夷西戎南蛮北狄の地もわきれハ

作ぬ。銀と銅ゆ者も民と宇ゑ

よハ高ぬ作ぬ〳〵かぬ作ぬ〳〵ろれ

ぬ〳〵ぬ作ぬ五十ぬれのゆ〳〵ぬ神代とゑ

ぬ〳〵

宝生方

迎法頻伽の色〳〵ぬ虞ゑ〳〵ぬ〳〵ぬ

衆やいづれ〳〵ぬ考ゑのうち〳〵ぬ〳〵

響ぬ〳〵ぬ〳〵ぬ〳〵

魔降伏の法力乃月毛夜文法華経ハ[illegible]
仏者乃神[illegible]の[illegible]
に[illegible]方々神力の悪魔と対抗ひ清めと[illegible]
[illegible]金指直[illegible]

下掛り

口上 迦陵頻伽のこゑ[illegible]
[illegible]や雷の声のうちよ[illegible]

口上 かくに[illegible]
[illegible]の神
[illegible]
の[illegible]代[illegible]

（以下観世ト同シ）

絵馬

観世 宝生 金剛 喜多

宝生 生方

上ヒテ [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

楸赤陽しき神松ひの。

喜多方

わかつ神さをなみけまそ　一篇ナリ

なちうしの時ひきけさ衣の袖ゆ出すみを秋

ひきつまちうを出すみを秋

観世方

右　わ先利物ばみをそ川のゆ　ぬをき

つる浦ぬ。

常陸なのそいつ近ゆる神さを

歌きそいつ神心をや榊葉のゆをぎ。

ち上にぎて。ゆ榊をよう神出乃韓神俳馬

楽。手早振

村雨ゆや　面ぬ出や

やれ浮ゆ岩戸をそ。いて。幾ゆ

ばつ延岩戸をなちかが雄の岩ハ動きあを所

衣乃袖よをぬ。ゆ陸をあ。れ出ぬ。

みづ。ゆ紀神ゆそびの

伏見　宝生

ゆ。や神の日巻。ゆ。日本綿むの色ゆ。

神出ぬ殺生神。月ゆ。

荒ゆ殺の宮乃。我とハ誰ゆ号ぬ

代とまるみのせいゆしまハ伏見の箱ゆ殺。神道ゆ

て八幡宮の海ぞいより浦に立帰りてぞ[illegible]
文の名をのこしぞ[illegible]の作とハ載事也

実を雑やうにしもぞ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の神の[illegible]

[illegible]川の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

礎潜

金剛

観世。金春大歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

実盛　観世　金春　宝生　金剛　喜多

観世方　太鼓有無両様ノ事　舞伝ノ翔リスルトキハ太鼓ナシ

合戦の時ハ
（後）遠国ノ海ノ大磯ハ
の赤磯ハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

り

観世ノ外

[illegible]

通盛

観世 金春 宝生
金剛 喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝長

観世 金春 宝生
金剛 喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

杜若

観世　金春　宝生
金剛　喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]天津みそ[illegible]の衣　又々春た
川裏考衣　[illegible]者[illegible]女の裏
[illegible]
[illegible]神。　[illegible]
[illegible]神
[illegible]名も月[illegible]
三五夜中の[illegible]又[illegible]如の新[illegible]
[illegible]四満[illegible]
[illegible]絵[illegible]
天の羽衣浦風[illegible]三保[illegible]
[illegible]
[illegible]天津みそ[illegible]

[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]異香[illegible]
[illegible]
[illegible]花[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]仏法[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

誓願寺

観世　金春　宝生
金剛　喜多

五の　[illegible]

夕日新　常のとき　大かぎ　[illegible]

[illegible]

十悪八邪乃ましひ　[illegible]

西方も　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法の悟人乃　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

観世ノ外

[illegible]の曲も今舞は菩薩の舞乃様を[illegible]
[illegible]人乃[illegible]を受[illegible]謝の舞
[illegible]

六浦

観世　金春　宝生
金剛　喜多

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

秋乃夜は[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あらひたもの　[illegible]生師も　陽ぬ色も白し

[illegible]も深海松の英を乃渡風。多湖の浦早咲

[illegible]も剥ぎ乃。浪も綾ど紅葉の被月[illegible]

[illegible]。新も松ゝや岩乃。新も[illegible]

[illegible]のよかとて。[illegible]

金剛方　絶休宝生ニ同シ

咲ヤ[illegible]の[illegible]や梅姫の　神の孫も松

[illegible]。　松ゝ[illegible]

[illegible]松ゝ[illegible]の　[illegible]

の色も[illegible]の[illegible]羽袖と[illegible]姫。[illegible]

やう〳〵　[illegible]柳[illegible]　或ハ[illegible]の

[illegible]の[illegible]　[illegible]の匂ひも[illegible]。

陀羅尼落葉　宝生　喜多

宝生方

[illegible]帰らひ[illegible]有かゝ[illegible]。[illegible]

[illegible]草の[illegible]の[illegible]の是と[illegible]

[illegible]出[illegible]の[illegible]律師[illegible]

声を上て陀羅尼[illegible]

[illegible]出[illegible]

[illegible]　わんら[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　澤蘭是

陀羅尼若當智者受持面之力　若但
書寫是人命終南生功利天宮八万四千
天女伎樂乃奏ぷかよや　嵐
奏ぐ音ハ　笙琴とや
ハ　雅琴を弾
ム　石ゑ頼ゝ　元泉の声ハ
ム　波乗れ揺ひ　乃ち玄鶴声　あひ
合ゑ世の吉祥の音響　法螺貝
ゑ丸ゑ小野の西種の音ゑ高ゑ野ゑ
風ゑ渉とかゑし　楽れとゑ　ゑ
一格の琴ハ　本法の音楽ゑ　打ゑ
喜多方

ゑ　ゑ出ゑ山ゑゑ　ゑて行ゑ　ゑ律師生ゑ
音ゑ　上　陀羅尼ゑ　ゑ　ゑ音ゑ
ゑ　ゑ　ゑ
（破ノ舞ノ跡）　乱ゑ音ゑ　ゑ
に音ゑ　ゑ音ゑ　ゑ　ゑ音ゑ　ゑ
鼓　元泉の音ハ　雅琴ゑ　ゑ　ゑ
ひ　法ゑ　ゑ　ゑ音ゑ　ゑ

善界　観世　金春　宝生
金剛　喜多

シテ　法ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

高雄山寺とみるバ大びえや　横河の楞厳
楞厳　南ハつづくぬ高ク嶽絶ル方ハ山の色
や高ク嶽ル岳ハ深ク谷ハ
上ノ句
梢の嵐吹来ル方ハ
る山河ハ木震動ス大かゝ〜ゆびゝ大
地ハひゞく雷ゝ肝魂ハ
のゆゝやらん
物の首領善界坊と
ハ我事也わ〜れ〜や
今ハ正坊今ハ何ノ報恩とか
障碍即有一偈　魔境と
欲界のゆゝ
雷ハ
雪ハ
雨ハ
柳ハ
大唐ハ天
帰ハ道やその

まに魔道のちまたとゆゝ
ものゝ
ゆゝ郭法と唱ル者
ハ魔仏一如ハ元ハ不二ノ
自性清浄天
名ハ
穂我説者得大智恵
ハ
ハ
むたゝ
明王わ〜ハ出ル
制多伽十二天ハ
降魔ハ力を合セ
法天ハ梅とゝ
ゝ吹風ハ
とゝれバ　山王権現　南ハ男山ハ
明王

山野や加茂の山風神を吹くばかり
花行けつゝまも地よおちちかくもつき弓
の八島乃浦を又元しがくとび
者て去ぬ加程まを仏力神力今よ
て波を見れやとゝ色ゞりハ虚空を球て
云奉ゞりゞ虚空まのうつゝ安を雲路
つゝまもも

船弁慶

観世 金春 宝生
金剛 喜多

悪逆奈道のをつゝ神の仏陀の冥感を宵
き夫命を者づゝ平氏の一類 主を始を

奉り一門の月郷雲霞のごとく流れて
みえるぞや

柳是ハ植武天皇九代
の孫流平れ知盛此是ハ芦屋ゝ浦やゝ小武
経ゝ見いもとゝ浦波の 潮と知て出て来る
知盛ゝ沈ゝ生ゝ捨ゝ 又義
経ゝ海ゝ者ゝ入ゝ 海ゝ深ゝ長刀ゝ草ゝ
波の紋ゝ成ゝ 潮ゝ来ゝ悪風ゝ
服ゝ心ゝ 前後ゝ計ゝ
生嗣義経ゝ
うち相板ゝ人ゝ 葉ゝ
かりゝ給ゝ 奈良ゝ満ゝ

[illegible]

方降三世[illegible]方軍荼利夜叉[illegible]大威德[illegible]金剛

[illegible]夜叉[illegible]中央大[illegible]不動明王のこと[illegible]

[illegible]いの[illegible]悪夫[illegible]ばかりの[illegible]

[illegible]と合[illegible]船と漕ぎ[illegible]れば[illegible]怒者

[illegible]ひ[illegible]と進[illegible]ひ祈[illegible]ものを又引[illegible]

[illegible]れ流[illegible]く[illegible]塩[illegible]ぶ[illegible]海[illegible]波と

[illegible]

鞍馬天狗 観世 金春 宝生 金剛 喜多

今ハ何とつゝむべき我沖山[illegible]年[illegible]たる大天狗ハ我

也一君岳住の大事と伺つゝ平家を七[illegible]

[illegible]ぎ[illegible]も男[illegible]れば[illegible]命[illegible]

[illegible]ゝ客僧ハ大僧正[illegible]谷を多て雲と迷て花

[illegible]ゆ[illegible]ん[illegible]

[illegible]天沙那王が出立よハ[illegible]ぎよハ[illegible]も横の[illegible]

[illegible]ゝ俗彼沙の直垂の露と結んで肩[illegible]

糸の股巻白柄の長刀 [illegible]ハ天魔鬼神[illegible]

[illegible]ぎ[illegible]ぎ[illegible]ぎ

人の為よりハあるべき山ぶしなどやとるべき花ぞ

月ハ春ぞの僧侶が谷よりみちびく罪と勧ぶ

花ぐもがくれ洗の為天狗だとてハわびしかや

其ごとくよわ高くぶ口三

柳あるべき姿も四季あるべ天物と師匠や坊主と貴族

ぱっと大事とのべ侍べ平家と討んと

思ひ出やもしのべるべ上三三

れの道

作戦略の法

き彼家の為上ハ清和天皇ハ後胤とぞ

ゾ

吐息をかんぐ耳たぶ

おつぐ生涯波の法を不起行比自在と点

叫ぶ我ぞ命ぶ我ぞ力と守るべし

星延ぶやぶ暇ぶて立場ぶ若枝ぶ

踏べ実名ぶあるべ西海四海の合戦べ

と離ぶ代ぶ矢の力とべ

ぶ柳ぶかぶべ歌ぶやたの

の木ぶ陽ぶかぶべ先ぶ

金春　喜多ハ　大ベレノ跡一ヶ脱ル　切一ヶ入

柳ぶ馬の矢作四ぶ谷ぶ大天狗ぶ

星延ぶや暇ぶ立場ぶ牛若ぶ

ぶ多ハまぶ主師ぶ京ぶ多ぶ西海ぶ

かぶ人ぶ離ぶ代ぶ矢の力とべ

[illegible]

安達原　観世　金春　宝生　金剛　喜多

観世ノ外ハ黒塚ト云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見渡風景いとゝ面白うちうち〻衣笠の物
冷き山陰に月待顔のうたゝねのうち神
つゝ花のうつ夢ぞ覚て俤絶ぬよ
わ〻涙まや我身〻の酒の酔心ぞとゞめむ
隙もなき中にあつた敵なる夏の苦し
花は雷火乳も大地も雲も風もちらちらのたゞ
うもゝ山中よだぼつうつゝや影
上方
月ぎや今迄育つ女〻
弱りあるい岩ほよ火燈を移ちぬ〻ハ虎
ふゝのほをゝし感陽宮の煙の中に光の扇
風のうつゝをぬ降てそたを一丈の鬼神

角ハかぼ〻眼々月面をむ〻ぢ舟〻をなき
惟持ガ〻えさハ〻て これうちもうもさ
ま〻給り角をやハ情大業歳心〻命ぢ鍛成
ぬ〻てかを〻ハ微塵〻ん〻で〻ら〻光
ちいむ〻と〻鬼神の手多門通代砂を頭
とうもてあ〻んとも〻ぢ〻い給ハ怒
れ〻い〻の〻を〻ぢ〻ち〻通〻急ち
鬼神と〻ぢ〻人ぢ〻ハ威安れ祈〻をかうし

神境まさにあらたなり　[illegible]

老木苔の所山金色の世界なれば　[illegible]

仏神[illegible]

其外妙法堅那羅王　[illegible]

樂乾闥婆王　樂音乾闥婆王　迦羅陀羅

王　羅候阿修羅王乃至沙の春角引つれ。

是も同じく　[illegible]　龍女が立ち波間の

袖　[illegible]　[illegible]あれや和田の原乃ぼりは白玉。

玉ハ[illegible]

月のうちなる[illegible]

八大龍王　八大龍王ハ　やつの冠をかぶる。

原ハ苔[illegible]月の[illegible]

[illegible]摩那の誕生[illegible]双林の入滅。

[illegible]

[illegible]　明惠上人供入[illegible]

[illegible]　波天ハ[illegible]　[illegible]供佛

[illegible]

[illegible]

沢の池乃[illegible]

[illegible]

[illegible]

宝生方

双林の入滅まそこ〳〵こをまこ〳〵皆ことに
付ようしゝ本体四ほの仏乃告ゝ我々時風秀行そと
てかき消様ゝ生たきり〳〵
神龍まけるあ大分〳〵色のうちよう光
よしゝ者の四ほ金色乃光事あし者も木も仏
神や河ゝ沙ゝ世界〳〵
神ゆゝうりふ自乃うりおれの川ゝ仏出
れハ八大龍王

時ゝ大地

八大龍王ハやゝ川の冠をうりかを

不幸春日四ほの月乃三至れゝよのゝ地ゝ下ゝ
燈火の時乃ゝ火ゝ出ゝ〳〵ゝ摩耶の法ゝ生ゝ
の法法

下掛リ

我ハ時風秀行そ

〳〵

時ゝ大地震動ゝ八ゝ方ゝ世界ゝ下界の龍神の出来か
ゝ人民一同ゝ雷動ゝ

（跡宝生ト同シ）

囃子ノ節脇不出時（各流同）

是迄ゝ人供ゝ居ゝ〳〵ゝ後天ハ
ゝ仏ゝ仏教ハ

殺生石

観世　金春　宝生
金剛　喜多

[illegible]

[illegible]

成仏願ひ奉て[illegible]花と面向焼香[illegible]石面に向ひ

[illegible]体[illegible]と[illegible]法元来[illegible]石とよせきまい[illegible]

[illegible]事[illegible]今生の[illegible]の[illegible]

自今已後法を成仏せしめ伝[illegible]如の意とおもへ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女郎花

観世 金春 宝生
金剛 喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

錦木　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]

松風　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]

夢又　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]

宝生方　近来

[illegible]

葵上　観世　金春　宝生　金剛　喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

不淨を隔つる忍辱の袈裟。赤木の珠数のいろ[illegible]

とぢ[illegible]と押もじ[illegible]一祈社の[illegible]なる。裏

[illegible]

誤三曼陀野曰羅教

[illegible]

[illegible]

悪夫[illegible]の法力つ[illegible]だきうと[illegible]る珠数

[illegible]

を押もむて

脇方下掛りたんトキハ

赤木の珠数のいろなるとぢ[illegible]と押もんで

[illegible]

一[illegible]。東方に降三世明王。[illegible]

くまもんだ[illegible]

舟橋 観世 金春 宝生 金剛 喜多

[illegible]

[illegible]三宝加持の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
功力とゆ[illegible]
と。初我四者即身成仏有がたや

宝生方迫来

[illegible]
功もやうをあだ波の　引ちらしてぐ盤石
の苦患　[illegible]えゝ多へ涉まーや

小鍛冶　観世　宝生　金剛　喜多

通力の才伝[illegible]
に参り金[illegible]ちらしつきまし[illegible]
の格者ぶり[illegible]
そのちやんきむ[illegible]

この[illegible]天国ひつまた[illegible]
祈り[illegible]宗近殿のう名あ[illegible]天
[illegible]度乃勅命[illegible]
唯今[illegible]宗近[illegible]合[illegible]帯帝
と拝[illegible]天[illegible]仰き頂[illegible]紙地つき骨髄の丹誠ずれ。
納受せ[illegible]謹上。再拝　北上　いたや

宗近動の鍛[illegible]
[illegible]
[illegible]
上[illegible]
けて[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

合甫　観世

[illegible]人須佐男となりて金恩と[illegible]
て金浦ゆもいせ法[illegible]渚の法めりく[illegible]
入[illegible]つる[illegible]白奥[illegible]
[illegible]て失
[illegible]

龍女ハ[illegible]意[illegible]と釋[illegible]接[illegible]成就の法と
又[illegible]
[illegible]
是成龍[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

目がもとかりもえ[illegible]流れ出ずるを[illegible]
[illegible]

張良はもとのごとつぎを
抜きもち[illegible]蛇神[illegible]大蛇は劔の光り
にかれ持る宝と指出すべ宝と進ず劔を納め。
又川舟[illegible]彼宝と[illegible]石公
[illegible]せ[illegible]ば石公馬を静[illegible]行ち[illegible]。
[illegible]も改[illegible]彼一巻[illegible]出[illegible]
あ[illegible]給ひ[illegible]ば[illegible]れ[illegible]被き[illegible]揉[illegible]。
秘曲口傳と殘[illegible]彼大蛇は[illegible]の再
[illegible]ん[illegible]心と[illegible]なり[illegible]ば[illegible]を[illegible]非
[illegible]や大蛇を雲井に擧上[illegible]ば石公[illegible]かの
[illegible]山[illegible]を[illegible]た
[illegible]と黄石[illegible]。有
[illegible]き

金剛方

諸仏も感[illegible]の[illegible]事を[illegible]仕へ。
[illegible]をたつ[illegible]事方を[illegible]。

鐵輪

観世 宝生 金剛 喜多

[illegible]人[illegible]魍魎鬼神[illegible]業乃命を[illegible]
[illegible]大小[illegible]神祇諸仏[illegible]明王[illegible]天童[illegible]九曜
七星二十八宿と[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

車僧

観世　金春　宝生
金剛　喜多

[illegible]

[illegible]

[illegible]

愛宕山考[illegible]

[illegible]

[illegible]

出悉皆成佛　有情非情皆共成仏道　利生

五十二類も我同性の塵

繁りにけれて　ぬ如の月のも　陸奥の国　足まで

来たり　者哉や

高安流脇方

風流の色も浦波も　皆実報の花ひらき法

とよし　春の小松　どどの　春の

一仏成道報見法界　草木国土悉皆成佛

一仏成道報見法界

百萬　観世　金春　宝生　金剛　喜多

上掛

わ〜わ〜乃金佛の　柏の　やひ〜　ハとんど　尻永

り〜〜

上カン　南無　阿弥陀佛

孫陀佛　南無阿弥陀仏　南無阿

人もわ後の月　われや　雲　れ

ども西へゆ〜　ゆ〜　仏や　まま　だ　ハ

新　誰の　なの後　ざ　べき　見　や　れ物

相　みれ心　意樣の　ん　ち〜　車　まわ　ケ後

ども　車　ひ　き　や　え　け　え

ハ　ハ　ハ　新　み　れ力　頼　や　利の　者

佛

下掛り　金春
金剛　方

あるときの大師佛れいけんや　手ぶくろ大師
ぞ　ふ筋わけ　ものの
南無阿弥陀仏　南無阿弥陀佛　南無阿
ぶ仏　ものみて佛　弥陀教　みて
なのむ人　八幡夜の月　あれや　中なかゆ
くれ　あるとぬやなかまよ　誰の八教主
ん　誰の教主　ぶよ

弥陀なのむ　喜多方

口　みて教ぶ人　八幡夜

月　ぶ　ぶ　ぶ

て。日月光り耀やきぬば。人の おすて者ろくし
ゆる 面白き神の 日蔵光 生き姫
めの。拍かより 男ハバ伊勢と三輪の神

下掛り

八百萬の神ら。岩戸光 春を是をか
げき神出を奏して 第多人ハ 天照
大神 岩戸をかくしひきて 隠ハバ
世界の 日月光 かくなりぬば。人の面
者ろくしとなる 神出を 祈やし神
の 義れ。妙なる 拍かる

金剛方

日月いろかなくなりぬば。人の面者ろくしと
なる 神出を 祈やし神の 邑の 妙
なる 拍かる

曦通

観世 金春 宝生
金剛 喜多

柳神 出をすゝむる 拍ろ
きゝ 中 かゞゝと奏して女ろ神。
姫ろ おすて者ろ 神の岩戸ろ
古への 袖ろ ひ出れゝ。 和光
同塵ハ結縁なり ハ相成道ハ利物の後
神の代七代 八百萬人ろ

情欲わうもう　天地ひろをり

まことも葬儀のみちこそぞれほとも

小塩

観世　金春　宝生
金剛　喜多

をしほ山　通ひ路のゆく末は

底まで見ぬ名をもや今を名ハ昔ものこと

とんでもなく　むしのかれ　昔ものこと

もしも有もなれ　あらし御幸とや

歌を忘れ　もしも有ぬ　うらの

やをしほの　山風ふれみだれちせやち

らせ散まうこのすゑ　ゆくゑ

ふむしをば名をうつ　かをしを宝ゆ　ゆくゑ

うつうつ　ゆくゑ　ゆくゑ

の月月ちぼのまれやゆくゑ

龍田

観世　金春　宝生
金剛　喜多

神の法華通夜　有つ若

とまんとて　神祇　きゆ

神ハ祝れを受給ひ　ぼ上清　や龍田

の川　風殿考　小時動　ぎねぐ敬

も色　有時の月　ゆれ